

令和7年度 農林水産省 国内肥料資源利用拡大対策事業のうち  
国内肥料資源活用総合支援事業のうち国内肥料資源流通促進支援

第2回

令和7年度  
国内肥料資源利用拡大アワード  
受賞取組紹介



# 令和7年度

## 第2回

# 国内肥料資源利用拡大アワード 受賞取組紹介

## 目 次

目次	1
受賞者一覧	2
国内肥料資源利用拡大アワード 概要	3
総評	4
【農林水産省 農産局長賞】	
三興株式会社	5
【農林水産省 畜産局長賞】	
十勝清水町農業協同組合	6
【国土交通省 上下水道審議官賞】	
特定非営利活動法人循環型 環境・農業の会	7
【国内肥料資源の利用拡大に向けた全国推進協議会 奨励賞】	
ENEGGO株式会社	8
興部町	9
県南環境保全センター株式会社	10
有限会社山陰ネッカリッチ	11
バイオ液肥研究コンソーシアム	12
ヒガシマル醤油株式会社	13
富士見工業株式会社	14
真庭市・真庭広域廃棄物リサイクル事業協同組合	15
大和フロンティア株式会社	16
国内肥料資源の利用拡大に向けた全国推進協議会について	17
国内肥料資源推進ロゴマークについて	18



## 受賞者一覧

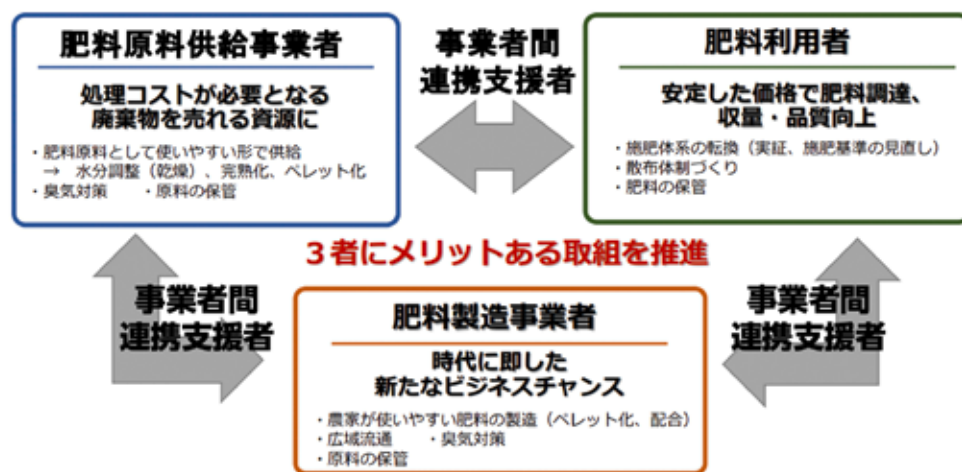


事業者名	事業名
<b>農林水産省 農産局長賞</b>	
三興株式会社	有機物と微生物を活用し、日本の農業と環境をクリエイトする
<b>農林水産省 畜産局長賞</b>	
十勝清水町農業協同組合	堆肥ペレット「しみず有機」と「とれたんと」の取組について
<b>国土交通省 上下水道審議官賞</b>	
特定非営利活動法人循環型 環境・農業の会	下水道肥料と未利用資源によるコスト削減と高品質、高収量への取組
<b>国内肥料資源の利用拡大に向けた全国推進協議会 奨励賞</b>	
ENEGGO 株式会社	廃棄卵殻の肥料としての活用及び、ビジネスモデルの構築
興部町	地域のバイオマス資源をフル活用！ バイオガスプラントによる資源循環
県南環境保全センター株式会社	季節の花や野菜作りに最適な汚泥発酵肥料「アースライフ」の製造販売
有限会社山陰ネッカリッチ	地域資源を活かす“あれあれ肥料”の循環型供給
バイオ液肥研究コンソーシアム	新時代の循環の輪 豊富な地域資源を活かして
ヒガシマル醤油株式会社	醤油醸造工程で発生する副産物を利用した資源循環型農業の取組
富士見工業株式会社	広域流通可能な高品質豚ぼん堆肥供給体制の構築
真庭市・真庭広域廃棄物リサイクル事業協同組合	くらしのなかから始める循環 生ごみ等の資源化で循環型のくらしへ
大和フロンティア株式会社	豊富な地域資源「竹」をパウダー化し、独自技術で製造した高機能有機肥料

# 「令和7年度 第2回国内肥料資源利用拡大アワード」 概要

## 表彰趣旨・目的

海外からの輸入原料に依存した肥料から、堆肥や下水汚泥資源等の国内資源を活用した肥料へ積極的に転換を図る取組や地域で効率的に資源循環を推進する取組を通して顕著な実績を挙げている肥料原料供給事業者、肥料製造事業者、肥料利用者、それらの事業者間の連携を支援している団体（以下、事業者間連携支援者）を広く表彰し、国内資源肥料の全国普及、生産性の向上を推進することを目的としています。



国内資源の肥料利用の拡大に向けた対応方向のイメージ（農林水産省 HP を一部改変）

## 審査基準（第2回）

取組内容が国内肥料資源利用のモデルとなり、これらの推進に貢献することが期待される優良事例を、以下の基本的な考え方と評価の観点を基に「国内肥料資源利用拡大アワード」審査委員が選考します。

※次年度以降、内容が変更となる場合があります。

取組区分	評価項目	評価の観点
共通	先進性・独自性	他者の取組には見られない先進的な特徴であるか。
	地域性・広域性	原料・肥料の供給先や調達先の近さ（地域内循環）、地域産業との連携や地域雇用の創出などに貢献する取組であるか。または広域で展開している取組であるか。
	継続性	取組の継続年数（検討期間は含まず、実際に原料や肥料の供給、利用を開始してから年数とする）実績はあるか。また、原料や肥料そのものの調達に安定性があるか。
	経済性	取組を実施することで十分な経済効果（健全な運営が可能な収益）が生まれるか。
	波及性	同業・他業問わず広く他の事業者の課題解決の参考となるような取組であるか。また、利用者の環境意識の醸成等の効果がある取組か。
供給・製造	供給率（量）・製造率（量）・出荷率（量）	国内資源の全発生量のうち肥料原料として供給している割合や年間供給量、および肥料の全製造量のうち国内資源肥料の製造率や年間製造量はどのくらいか。加えて上記製造量のうち出荷した割合や量はどのくらいか。
	利便性・品質	肥料原料・肥料として使いやすい形で供給されているか。また、高品質（例：作物生育に良い効果を発揮する等）な肥料原料もしくは肥料であるか。
	保管・臭気・安全対策	原料や堆肥の保管状況は適切であり、周囲に臭気の影響が無いように供給・製造されているか。また、作業員の労働環境の安全性に留意しているか。
利用	削減率（量）・年間施肥量	従来の化学肥料や海外産肥料の削減割合や量および年間施肥量はどのくらいか。また、単位面積（10a）当たりの施肥量はどのくらいか。
	施肥体系の転換、散布の省力化・体制	実証・施肥基準の見直し等、適切なプロセスを踏まえているか。また、肥料を散布する際に効率化・省力化に繋がる工夫や地域内での連携体制等が取られているか。
	ブランド化	国内資源肥料を利用した生産物の付加価値を消費者へPRしているか。
連携支援	主体性	連携者間において応募者が主体的に運営、取り纏めを行っているか。または連携者間で応募者はどのような役割を担っているか。
	連携の継続性・実績	肥料供給事業者・肥料製造事業者・肥料利用者との連携体制の構築および協議の場は十分に設けられているか。また取組のPRの実績はあるか。
	関係機関との調整等	肥料供給事業者・肥料製造事業者・肥料利用者以外の関係機関等とどのような調整を行っているか。また、運営を行うに当たってどのような工夫をしているか。



# 「令和7年度 第2回国内肥料資源利用拡大アワード」

## 総 評

第2回目となる「国内肥料資源利用拡大アワード」では、前回第1回で複数見られた「国内肥料の原料供給、製造、利用を直接的に行う事業者ではないが、それら事業者を束ねて全体的に取組に関与している旨を記載している応募」に対応するべく、取組区分として新たに「事業者間連携支援者」を加え、審査基準を新設しました。その上で、審査委員会では特に以下の観点を重視した審査を行いました。

- 十分な量の原料や肥料を継続的に供給・製造・利用している
- 地域で原料や肥料が循環する仕組みを構築している
- 地域資源を利用者が使いやすい形で提供している
- 産学官の連携がなされ、多くの関係者の合意形成がなされている
- 未利用資源の有効活用や新しい堆肥化技術（臭気対策、発酵期間の短縮等）の導入を図っている
- 国内資源の肥料利用の意義の普及に注力している
- 他地域においても展開が期待できる取組である

本年度の取組は、国内資源を最大限に活用した有機肥料の生産と地域循環型農業の実践が高く評価されます。家畜ふん尿や食品副産物、下水汚泥、メタン発酵消化液など、多様な未利用資源を有効に再生し、肥料の品質向上やコスト削減、環境負荷の低減を実現しています。さらに、JAや行政、企業、農家が一体となった連携体制のもと、地域内利用やブランド化、環境教育の推進など、持続可能な農業モデルとしての広がりも顕著です。資源循環と農業振興を両立させた先進的な取組として、今後の発展が大いに期待されます。

この度表彰された様々な取組をご参照いただき、今後の皆様の取組の参考にさせていただくとともに、日本全国において国内肥料資源利用拡大がさらに加速していくことを期待します。

受賞された皆様に心からお祝い申し上げますとともに、今回は受賞とならなかった皆様にも素晴らしい取組をされていることに敬意を表します。

審査委員長

東京大学名誉教授 芋生 憲司



### 受賞者の主な取組の展開地域 ※1

三興株式会社	兵庫県上郡町	有限会社山陰ネッカリッチ	島根県松江市
十勝清水町農業協同組合	北海道清水町	バイオ液肥研究コンソーシアム	宮崎県新富町
特定非営利活動法人 循環型 環境・農業の会	佐賀県佐賀市	ヒガシマル醤油株式会社	兵庫県たつの市
ENEGGO 株式会社	佐賀県有田町	富士見工業株式会社	静岡県静岡市
興部町	北海道興部町	真庭市・真庭広域廃棄物リサイクル事業協同組合	岡山県真庭市
県南環境保全センター株式会社	青森県十和田市	大和フロンティア株式会社	宮崎県都城市

※1：取組の中心となる位置もしくは主たる工場の位置を記載

# 有機物と微生物を活用し、 日本の農業と環境をクリエイトする 三興株式会社

肥料製造  
連携支援  
畜ふん  
下水汚泥  
その他

循環資源活用で「土づくり」、産地生産基盤強化で農業収益と環境増進の両立に挑戦。

## 団体紹介

**団体名：**三興株式会社  
**取組実施地：**兵庫県赤穂郡上郡町（製造：山陽工場）  
 北海道・東北・関東・近畿・中国・四国・九州（取組：全国産地）  
**団体の主な活動：**①肥料（混合堆肥複合肥料、指定混合肥料、微生物入り土壌改良肥料）の製造・販売  
 ②肥料事業の企画開発・販売普及、③原料供給事業化の支援  
**ウェブサイト：**<https://sankou-bio.net/wp/>

## 取組概要

### 背景・目的

資源循環型農業と自然環境の機能増進を実現するため、自社の強み（循環資源の利用、国内未利用資源拡大による肥料開発・事業化、未利用原料の供給事業化支援）を活かし、土づくりから日本農業と環境増進に貢献する。

### 取組内容・ポイント・効果

原料とするバイオマス

鶏ふん堆肥／牛ふん堆肥／油かす／再生リン／焼却灰／その他

国内資源肥料の年間製造量／全肥料の年間製造量（製造率％）

6,500t/8,125t（80％）

- 有機質等国内肥料資源の総販売量は累計18万t超
- 長期保管可能で、機械的散布が容易な水分量5％以下のペレット肥料を製造
- 30年以上に渡り、地域周辺の家畜ふん等を原料とした肥料（成分調整成型濃縮堆肥や混合堆肥複合肥料、指定混合肥料）の製造・販売。同時期に微生物を活用した残渣／残根の分解促進肥料（稲わら、野菜等）を我が国で初めて量産化
- 農家を対象とした現場での勉強会や営農を実践し、地域特色を考慮した肥料設計を繰り返し検証
- 企業や自治体と連携し、当時、未利用資源であった再生回収リンを農業者ニーズにあった肥効・配合した肥料を製造。現在も国内未利用資源拡大に向けて、複数の自治体や企業と連携し社会実装を支援
- 循環資源を活用した土づくり及び国内未利用資源（原料供給事業化）の創出支援
- 国内肥料資源活用施設総合整備支援を活用した設備導入により製造燃料削減を実現

設備導入による製造燃料削減の実現



混合堆肥複合肥料の実証試験



循環資源を活用した微生物資材による産地生産基盤強化



農林水産省  
畜産局長賞

# 堆肥ペレット「しみず有機」と「とれたんと」の取組について

## 十勝清水町農業協同組合

肥料製造  
原料供給  
肥料利用  
下水汚泥  
畜ふん

地域内資源の利用による耕畜連携と、土づくりによる農作物のブランド化に取り組む。

### 団体紹介

団 体 名：十勝清水町農業協同組合  
取 組 実 施 地：北海道上川郡清水町  
団体の主な活動：組合員が生産する農畜産物(畑作物、生乳等)の販売、生産資材の購買、信用・共済事業等  
ウェブサイト：<https://portal.ja-shimizu.or.jp/>

### 取組概要

#### 背景・目的

北海道清水町は、農耕地1.4万haのうち半分を飼料作物が占め、乳用牛約2.8万頭、肉用牛約2.2万頭を飼養する(令和6年末時点)、酪農・畜産業が盛んな地域である。町内に豊富にあるバイオマス資源の有効利用による循環型農業、有機的農業の推進及び産業廃棄物削減による環境汚染問題の軽減を目的に、平成21年よりJA十勝清水町家畜排泄物堆肥化施設を設立・稼働し、堆肥ペレット「しみず有機」を製造・販売している。

#### 取組内容・ポイント・効果

原料とするバイオマス

牛ふん堆肥／鶏ふん堆肥／間伐材・剪定枝

国内資源肥料の年間製造量／全肥料の年間製造量(製造率%)

800t/800t(100%)

#### <「しみず有機」の原料・製造工程>

清水町内の農業者から発生する乳牛ふんと採卵鶏ふんを主原料とし、北海道内の伐採木から出る天然木質チップを水分調整のために添加している。

製造工程は、①受け入れた上記原料を、屋外堆肥化施設にて切り返しをしながら好気条件下で腐熟化させる(約3～6カ月) ②初期段階の腐熟化が完了後、ブローアで通気してさらに腐熟化・水分低下させる(約2～3カ月) ③粗大な木質チップを取り除き、ペレットにする ④ペレットを乾燥する。

#### <利用促進・ブランド化の取組>

堆肥類が豊富に存在する地域で選ばれるための差別化として、機械散布しやすいようにペレットの小粒化や、有効成分や肥効について研究機関と共同研究を行った。

- JAコントラクターで散布作業を受託し、春・秋の農繁期の労働負担低減を図りながら利用促進活動を行っている。
- 組合員向け『肥料のしおり』に、「しみず有機」を使用した場合の化学肥料を減肥した施肥設計例を記載している。
- 製品の9割以上は地域内の農家が利用し、地域循環型農業を展開している。畑作物への利用だけでなく、牧草地にも積極的に利用され、牧草の嗜好性が上がったとの評価を得ている。
- 「しみず有機」を使用した“元気な土で育てる”取組ブランドを「とれたんと」として、小豆、アスパラ、にんにく等を付加価値販売している。
- 500g小袋から500kgフレコンまでの4種類のサイズを販売している。

#### <「しみず有機」の特徴>

- 腐熟化の過程で発生する熱により、雑草種子や病原菌の心配がない。
- 水溶性もしくはク溶性のミネラル分を豊富に含む。
- 製造過程で化学的な物質を添加していないためJAS有機栽培で利用可能。
- 堆肥特有のふん尿臭がなく、輸送性に優れ、ブロードキャスターでの散布が可能。

屋外堆肥化施設と原料保管棟



製品ラインナップ

しみず有機  
Shimizu Organic

各ブランドロゴ

とれたんと



# 下水道肥料と未利用資源による コスト削減と高品質、高収量への取組

特定非営利活動法人循環型 環境・農業の会

肥料製造  
連携支援  
下水汚泥  
その他

地域内資源の利用による耕畜連携と、土づくりによる農作物のブランド化に取り組む。

## 団体紹介

団体名：特定非営利活動法人 循環型 環境・農業の会

取組実施地：佐賀県佐賀市

団体の主な活動：①環境保全型農業の普及活動 ②ダンボールコンポストを利用した生ゴミ等減量促進事業

ウェブサイト：https://x.gd/wZgVB (Facebook)

## 取組概要

### 背景・目的

近年、化学肥料価格の高騰や輸入資源への依存により、農業経営の不安定化が課題となっていた。一方、佐賀市には下水道肥料や未利用バイオマスが存在していたが、適切な施肥設計や補完資材との組み合わせを示さなければ十分に活用されにくい状況にあった。

### 取組内容・ポイント・効果

原料とするバイオマス	下水汚泥コンポスト／間伐材・剪定枝・落ち葉／米ぬか・籾殻／その他		
国内資源由来肥料の年間施肥量	3,000t	化学肥料・海外産肥料の利用削減率	70%
生産作物	水稲／麦／トマト／イチゴ／レンコン／タマネギ／ナス／キュウリ		

利用者に対して定期的な勉強会を開催し、下水道肥料と木質バイオマスなどを組み合わせることで、カリ分や炭素を補完する施肥設計の考え方を共有している。あわせて、実践事例を参加者間で共有することで、栽培技術の向上と普及につなげた。さらに、家庭向けに下水汚泥肥料の小口サンプルを配布し、市民の資源循環への理解促進と家庭菜園への普及を進めることで、農業者と市民が一体となって循環型農業を支える地域基盤の形成につながっている。

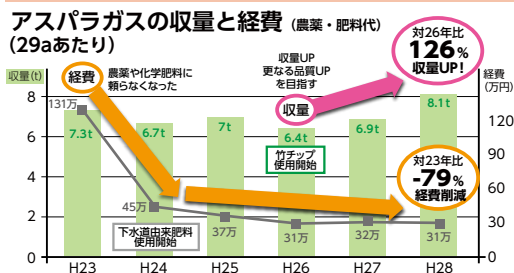
**【経済性】** 佐賀市の下水道肥料（2円/kg）と木質バイオマスを含む地域の未利用資源を組み合わせることで、化学肥料の代替率は50～100%に達し、従来比で5～9割という大幅なコスト削減を実現している。これにより、近年の肥料価格高騰の影響をほとんど受けずに営農を続けてきている農家が多く、地域農業の経済的安定に大きく寄与している。

**【継続性・波及性】** 年3回の勉強会や施設栽培に特化した専門講座を通じて、施肥設計や栽培管理の改善を継続的に支援し、実践者のスキル向上と地域全体への技術波及を促している。この取組は、生産者同士の学び合いを育み、総合的な農業技術の向上と持続可能な循環型農業の基盤づくりにもつながっている。

**【見える化】** 野菜の健康診断スコアや土壌肥沃度評価「SOFIX」などによる定量的・科学的な分析を取り入れることで、客観的な品質保証と安全性の裏付けを確立。これにより農産物の信頼性が向上し、各種食味コンテストでも高評価を受けるなど地域農産物のブランド化にも貢献している。

**【市民参加・需要拡大】** 生ゴミ減量事業（佐賀市業務委託事業）では、下水汚泥肥料の600gサンプルを家庭向けに配布し、家庭菜園での小口利用を促進し、市民レベルでの資源循環の理解促進と需要拡大にもつながっている。

### 利用者の推移とコスト削減



### 栄養価・土壌肥沃度評価



### 食味コンテスト





全国推進  
協議会  
奨励賞

# 廃棄卵殻の肥料としての活用及び ビジネスモデルの構築

ENECCO株式会社

肥料製造

原料供給

その他

廃棄卵殻から有機石灰と液肥を製品化。独自の仕組みで、経済性と機能性を両立。

## 団体紹介

団体名：ENECCO 株式会社

取組実施地：佐賀県西松浦郡有田町

団体の主な活動：卵殻のアップサイクル事業（液体肥料・有機石灰）

ウェブサイト：<https://eneggo.com/>

## 取組概要

### 背景・目的

日本は世界有数の鶏卵消費国であり、国民1人当たり1年間で300個以上の卵を消費している。その裏では大量の卵殻が廃棄されており、その量は年間25万トンに上る。一方、農業界においては脱化学肥料依存が求められる中、価格面、肥効面のハードルの高さから依然として化学肥料に頼らざるを得ない状況が続いている。こうした課題の解決に向けて、独自のビジネスモデルで取り組んでいる。

### 取組内容・ポイント・効果

原料とするバイオマス

食品残さ（卵殻）

国内資源肥料の年間製造量 / 全肥料の年間製造量（製造率）

1,033t / 1,061t（97%）

#### ①独自のビジネスモデルにより、経済合理性を追求

原料となる卵殻は、全国の割卵工場から調達している。粉碎乾燥機を割卵工場内に設置し、運用コストを割卵工場側に負担いただくことで、製品原価を大幅に削減。一般的な製品と同価格帯での供給を可能にしている。割卵工場としても、従来負担していた産廃費用の削減につながり、双方にメリットのある持続可能なビジネスモデルとなっている。

#### ②独自技術により、高い肥効性を実現

##### 【有機石灰】

独自開発の設備により、火力を使わず破碎熱により卵殻を乾燥。無焼成卵殻として製品化することで、卵殻の力を最大限に引き出す製法を採用している。一般的な石灰のような土壌pHの調整機能に加えて、卵殻膜由来のアミノ酸による生育促進や、土壌微生物活性化等の効果を併せ持つ製品である。

##### 【液体肥料】

卵殻膜を分解することで、全18種類のアミノ酸を含有する液体肥料を製造している。すべてのアミノ酸をバランスよく含む他、特許技術により低分子化されているため、植物がすぐに吸収でき即効性に優れる。卵殻膜アミノ酸の効果として、植物の代謝機能や光合成を改善する働きがある。

そのため、卵殻膜アミノ酸を使用することで、化学肥料使用量を低減させつつ同等以上の作物収量が期待できる。

有機石灰（1kg～20kg）



左：たまごの液肥 オーガナブル（800ml）

右：有機配合液肥（20kg）



全国推進  
協議会  
奨励賞

# 地域のバイオマス資源をフル活用！ バイオガスプラントによる資源循環

興部町

肥料製造

原料供給

下水汚泥

畜ふん

その他

酪農から発生する家畜ふん尿と生ごみ・下水汚泥などのバイオマス資源からバイオ液肥を生産。地域内で資源循環を完結。

## 団体紹介

団 体 名：興部町

取 組 実 施 地：北海道興部町

団体の主な活動：メタン発酵バイオガスプラントの運営及びバイオ液肥の生産

ウェブサイト：<https://www.town.okoppe.lg.jp/cms/section/kikaku/biomass.html>

## 取組概要

### 背景・目的

酪農専業地域である興部町は適切なふん尿処理による酪農基盤強化と生活環境改善を目的とし、バイオガスプラントを中心としたまちづくりを目指している。

### 取組内容・ポイント・効果

原料とするバイオマス

家畜ふん尿／下水汚泥／生ごみ／食品加工残さ

国内資源肥料の年間製造量／全肥料の年間製造量（製造率％）

14,299t/14,299t（100％）

【地 域 性】 地域住民の生活環境改善（臭気対策）とバイオ液肥利用による基幹産業である酪農基盤の強化を実現

【利 便 性】 利用農家の散布効率向上と、市街地での散布車両往來を減らし住民の安全性を向上させるため、牧草地近隣にバイオ液肥のサテライト貯留槽を整備

【経 済 性】 従来高額なコストをかけて処理していた下水汚泥や生ごみを資源化することで、処理費用削減による行政コスト削減に寄与

【環 境 性】 下水汚泥や生ごみの資源利用により従来の処理（焼却など）に対し、温室効果ガスの削減に寄与

【ブランド化】 町内外小中学校のバイオマスに関する出前授業や施設見学により環境教育や意識醸成を図る

【研究の場】 バイオマス資源利活用やゼロカーボンに向けた取り組みの研究フィールドとして産学官連携の場を醸成

興部北興バイオガスプラント



バイオ液肥「おこっぺバイオ」



サテライト貯留槽



全国推進  
協議会  
奨励賞

# 季節の花や野菜作りに最適な汚泥 発酵肥料「アースライフ」の製造販売

## 県南環境保全センター株式会社

下水汚泥

畜ふん

その他

下水汚泥等の地域廃棄物を肥料に再生  
化学肥料の使用低減と持続可能な資源循環ループを構築。

### 団体紹介

団 体 名：県南環境保全センター株式会社

取 組 実 施 地：青森県十和田市

団体の主な活動：①浄化槽の維持管理事業 ②処理施設の運転維持管理事業 ③メタン発酵ガス化発電事業

ウェブサイト：<https://www.kkhozen.co.jp>

### 取組概要

#### 背景・目的

「環境にやさしい肥料」ーその原料調達・製造・農地還元の地域完結型のリサイクルループを確立。また、農家の化学肥料の低減、土壌品質の改善に寄与し廃棄物のリサイクル率アップに貢献。

#### 取組内容・ポイント・効果

原料とするバイオマス

下水汚泥コンポスト／食品残さ／鶏ふん堆肥／その他

国内資源肥料の年間製造量／全肥料の年間製造量（製造率％）

1,746t/1,746t（100％）

当取組のポイントは、青森県十和田市を中心とした地域内での完全な資源循環ループの構築である。初めに、公共下水道・農業集落排水、さらには自社のメタン発酵ガス化施設「バイオガスエネルギーとわだ」からの汚泥を主原料とした肥料製造により、地域廃棄物の継続的かつ安定的な資源化を実現。製造した肥料「アースライフ」は、農家への販売により化学肥料の低減と土壌改良につながり、経営の安定化に貢献している。

さらに、「バイオガスエネルギーとわだ」へ食品残さを搬入するスーパーマーケットから、当社肥料を仕入先の生産者に積極的に活用して頂くことで、「食品残さ→電気・肥料→生産→消費」の食品リサイクルループを構築し、地域全体の資源循環を推進する。販売面では、道の駅等で3kg・15kgの袋詰めを販売。また、農家向けにフレコンバック詰めやダンプトラック運搬による供給で多様な利用者ニーズに対応し、この循環モデルそのものの持続性を確保する。取組の効果として、製造した肥料は土壌の団粒形成や地力向上に寄与し、地域の農産物の品質改善・収量安定に貢献している。また食品残さ等の地域資源を適正処理することで、焼却量の削減やCO<sub>2</sub>排出削減にも繋がり、持続可能な地域環境の実現に大きく前進した。今後も地域資源循環を強化し、環境保全と農業振興の両立に取り組む。

#### 資源循環ループ



#### アースライフ（左：3kg 右：15kg）





全国推進  
協議会  
奨励賞

# 地域資源を活かす “あれあれ肥料”の循環型供給

有限会社山陰ネッカリッチ

肥料製造

畜ふん

「あれあれ肥料」を通して国内資源由来肥料を供給し脱炭素による循環と持続農業を全国へ

## 団体紹介

団体名：有限会社山陰ネッカリッチ

取組実施地：島根県松江市

団体の主な活動：①ネッカリッチ（広葉樹皮炭と木酢液の混合資材）の応用研究・販売  
②国産有機資材を活用した有機肥料の研究・開発・販売

ウェブサイト：<https://sanin-nekka.securesite.jp>

## 取組概要

### 背景・目的

化学肥料の価格高騰・輸入不安定化で肥料コスト増と調達リスクが全国的課題となる一方、鶏ふん・牛ふん等の畜産副産物や木質・ミネラル系の国産有機資材は未活用が多い状況である。そこで当社は、全国の国産有機資材を循環的に組み合わせた有機JAS適合の高品質肥料を安定供給し、脱炭素、化学肥料依存の低減と持続的農業の実装、国内肥料資源利用の拡大に貢献するものである。

### 取組内容・ポイント・効果

原料とするバイオマス

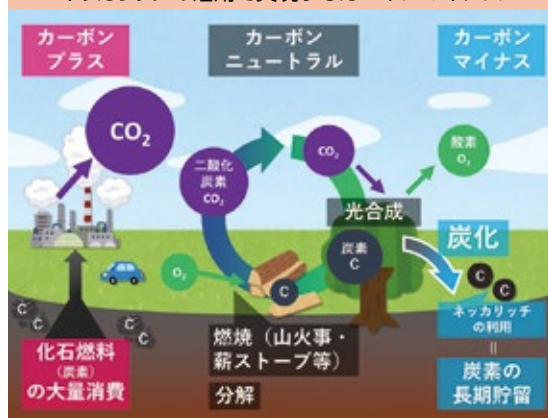
鶏ふん堆肥／牛ふん堆肥

国内資源肥料の年間製造量／全肥料の年間製造量（製造率％）

133t/133t（100％）

当社は、畜産副産物と木質資源、ミネラル資材など国産の有機資材を組み合わせた指定配合肥料「あれあれ肥料」を開発・製造し、全国の農家へ供給している。原料の核は、鶏ふんと牛ふんをそれぞれ長期熟成させた完熟資材である。鶏ふんは当社資材ネッカリッチを給与した鶏由来のものをを用いることで、熟成段階から臭気を抑えつつ良質な堆肥化を実現している。そこに国産杉の粉碎チップ（ウツンファイバー）や与那国産化石サンゴ等を配合し、物理性やミネラル供給を高め、肥効の安定と作物品質の向上を狙っている。原料は鶏ふん・牛ふん・杉チップなどの国内の副産物を有効活用しており、未利用資源の循環利用と製造コスト抑制を両立できる。現在、年間133tを製造し114tを安定的に納品、利用農家は50戸まで拡大。本肥料は有機JAS適合資材（登録番号SOAA-20008）として登録済みで、有機農業や輸出向け生産にも対応可能である。県内外の野菜・水稻など幅広い作物で活用され、生育の揃い、収量の安定、食味や日持ちの改善といった効果が確認され、高品質農産物の生産に寄与している。代表的な事例や当社の取組は動画化して公開し、公式サイトやInstagramで継続的に発信することで普及を進めている。

### ネッカリッチの活用で実現するカーボンマイナス



### あれあれ肥料



### あれあれ肥料でできた農産物



公式サイト



Instagram



全国推進  
協議会  
奨励賞

# 新時代の循環の輪 豊富な地域資源を活かして バイオ液肥研究コンソーシアム

肥料製造

連携支援

畜ふん

バイオ液肥でつなぐ農・食料・産業の地域循環

— 肥料の域内シェアによる有機農業推進と地域エコシステムの構築 —

## 団体紹介

団 体 名：バイオ液肥研究コンソーシアム（バイオマスリサーチ株式会社（代表）、株式会社本部農場、新富町畜産バイオマス利活用促進協議会）

取 組 実 施 地：宮崎県児湯郡新富町

団体の主な活動：メタン発酵ガス化発電設備によるバイオ液肥製造、活用支援

ウェブ サイト：https://biomass-research.net/

## 取組概要

### 背景・目的

本コンソーシアムの代表企業であるバイオマスリサーチ(株)は、2015年以降、新富町にてバイオガスプラントの導入支援、導入後のバイオ液肥の施肥マニュアル作成、自動散布車両や濃縮技術の研究開発を進めてきた。2022年には県・町・農家が参加する「新富町畜産バイオマス利活用促進協議会」が設立され、バイオ液肥の地域利用を目指した実証散布が始まった。2023年にはG7宮崎農業大臣会合を契機に三者連携協定（宮崎県・新富町・バイオマスリサーチ(株)）を締結し、バイオ液肥の更なる普及を図っている。2025年10月には(株)本部農場と地域肥料会社(株)バイオ液肥研究所」を設立し、地域利用を進めながら、肥料自給率向上と有機農業推進のモデル構築を目指している。

### 取組内容・ポイント・効果

原料とするバイオマス

畜産ふん尿

国内資源肥料の年間製造量／全肥料の年間製造量（製造率％）

8,000t/8,000t（100％）

#### 1. 事業継続性を支える地域循環体制

酪農場から年間8,000tの畜産ふん尿が安定供給され、バイオガスプラントで再エネ（熱や電力）、バイオ液肥を生産することで、収益性と環境性を両立。さらに、3か月分の貯留施設により年間需要の変動にも対応している。

#### 2. 地元農家と地域の多様な関係者の連携によるバイオ液肥栽培実証

農家と県の振興局、農業普及センター、JA、新富町、バイオマスシンクタンク（バイオマスリサーチ(株)）が連携した実証散布と県総合農業試験場での施肥試験を継続実施し、知見を蓄積している。また、施肥結果や他地域での取組を踏まえ、施肥量・施肥方法の改善や対象作物と利用農家の拡大に取り組んでいる。

#### 3. 慣行農業と比較した化学肥料の節減効果

加工米では6,700円/10a、小麦では3,000円/10a、原料用かんしょでは3,000円/10aの化学肥料の節減効果が確認されている。

#### 4. バイオ液肥を活用した有機米・甘酒の販売展開とブランド化

有機米を生産する町内農家は農水省コンクールで農産局長賞を受賞し、2023年4月のG7宮崎農業大臣会合でも提供され高評価を得た。現在はおにぎり店の運営や海外輸出など事業を発展させている。

また、別の農家はバイオ液肥で育てた加工米による甘酒をブランド化し、町のふるさと納税の返礼品にも採用されている。



有機米

甘酒「稲倉」



全国推進  
協議会  
奨励賞

# 醤油醸造工程で発生する副産物を利用した資源循環型農業の取組

ヒガシマル醤油株式会社

原料供給

連携支援

その他

醤油の諸味粕を発酵・堆肥化したASK（発酵諸味粕堆肥）を活用し地元で醤油醸造用小麦・大豆や水稻へ循環供給する資源循環型農業

## 団体紹介

団体名：ヒガシマル醤油株式会社

取組実施地：兵庫県たつの市

団体の主な活動：しょうゆ等の各種液体調味料の製造販売、各種粉末調味料の販売

ウェブサイト：<https://www.higashimaru.co.jp/>

## 取組概要

### 背景・目的

契約栽培による醤油醸造用小麦・大豆の地産化を進める中、醤油副産物である諸味粕を発酵・堆肥化したASK（発酵諸味粕堆肥）を開発した。醤油醸造工程で生じる諸味粕は塩害の印象から利用が困難と思われてきたが、圃場への施用量の基準を200kg/10a（牛ふん2,000kg/10a施用時のNa投入量と同等となる量）としながら、安全性と増収の確認を行ってきた。

契約栽培の生産者においてASKを圃場に施用することで、圃場への窒素肥料分の供給を主とした土づくりを行い、これによる化学肥料依存の低減・生産性の向上を図っている。これらの活動を通してヒガシマル醤油は原料調達の安定化と資源循環型農業による持続可能性の向上に取り組んでいる。

### 取組内容・ポイント・効果

原料とするバイオマス

食品残さ（醤油諸味搾り粕）

国内資源肥料の年間製造量／全肥料の年間製造量（製造率％）

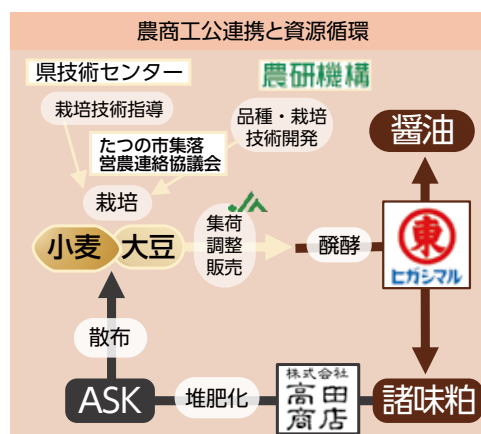
300t/2,500t（12％）

### <取組内容>

- 取組の事務局である高田商店と共に醤油製造工程で発生する諸味粕を発酵・堆肥化してASK（発酵諸味粕堆肥）を製造・供給する。散布作業は高田商店が実施し生産者負担を軽減する
- 高田商店やたつの市集落営農連絡協議会、JA兵庫西、兵庫県立農林水産技術総合センター、農研機構等と連携し、試験場での安全性と効果確認、現地圃場での実証試験を行いながら、年間延べ150haにASKを供給している

### <主な効果・実績>

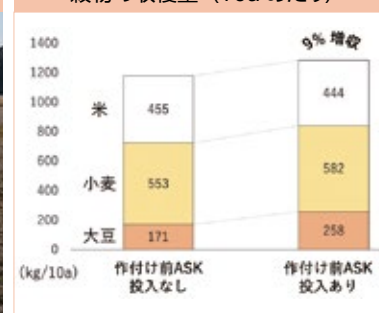
- 県技術センターとの委託研究により、ASKのみでの水稻栽培が可能であることを実証した
- 2年3作体系にASKを導入し、小麦でのたんぱく含量の向上・大豆での増収を確認し、また穀物合計で約9％の増収と化学肥料量を約39％削減できる試算を得た（導入圃場の実績）



ASKの散布作業



穀物の収穫量（10aあたり）





全国推進  
協議会  
奨励賞

# 広域流通可能な高品質豚ふん堆肥 供給体制の構築

富士見工業株式会社

肥料製造

肥料利用

畜ふん

複数拠点連携と広域流通で実現する高品質豚ふん堆肥の安定供給体制を構築した

## 団体紹介

団 体 名：富士見工業株式会社

取 組 実 施 地：静岡県静岡市

団体の主な活動：有機質肥料（畜ふん堆肥）・土壌改良資材・法面緑化基盤材を取り扱う堆肥卸売業

ウェブサイト：<https://fujimi-group.co.jp/>

## 取組概要

### 背景・目的

豚ふん堆肥は地域によって供給が偏在し、品質のばらつきや施用効果の不明瞭さが利用拡大の課題となっていた。当社はこれらを解消するため、複数拠点から品質を標準化した豚ふん堆肥を安定供給し、地域の枠を超えた広域流通体制を構築するとともに、施用効果を数値化して化学肥料代替につなげることを目的に取組を進めた。

### 取組内容・ポイント・効果

原料とするバイオマス

豚ふん堆肥

国内資源肥料の年間製造量／全肥料の年間製造量（製造率％）

8,250t/8,250t（100％）

- ①広域流通による需給ギャップ解消 複数拠点から高品質な堆肥を安定供給し、当社独自の広域ネットワークで配送・在庫を最適化。供給過多地域と需要地域をつなぎ、地域間の偏在を解消した。
- ②品質標準化と安定供給体制 独自基準による含水率管理と品質分析により、複数拠点で均質な堆肥を製造。耕種農業者が安心して使える品質を確保した。
- ③施用効果の定量化と化学肥料代替 施用試験を通じて施肥効果・土壌改善効果を科学的に検証。化学肥料20％削減でも同等以上の収量を確認し、化学肥料代替の有効性を実証した。
- ④持続可能な供給体制と経済性の向上 2020年度から継続して取り組み、事業として自立した運用を確立。従来は価値が付きにくかった豚ふん堆肥を有価製品化し、畜産農家・利用者双方にメリットを生み出した。
- ⑤利便性向上と品質安定化 ペレット・粒状品を主体とし、散布しやすく臭気・固着を抑えた製品を供給。品質分析と工場へのフィードバックで安定品質を維持している。
- ⑥全国展開可能なモデルとしての波及効果 広域循環モデル（耕畜広域連携）として注目され、他地域からの協力要請も増加。家畜ふん資源の有効活用と循環型農業の推進に貢献している。

堆肥の工程



縦型コンポスト



スクリュー式発酵装置



ペレット加工

出荷の様子・製品



フレコン出荷



ペレット製品



ポリ袋製品

全国推進  
協議会  
奨励賞

# くらしのなかから始める循環 生ごみ等の資源化で循環型のくらしへ 真庭市・真庭広域廃棄物リサイクル事業協同組合

肥料製造

その他

「燃やす」から「減らす」「活かすへ」 生ごみなどを液体肥料にリサイクル

## 団体紹介

団 体 名：①真庭市 ②真庭広域廃棄物リサイクル事業協同組合  
取 組 実 施 地：岡山県真庭市  
団体の主な活動：生ごみなどをメタン発酵して液体肥料へ再生、農業での活用  
ウェブ サイト：https://maniwa-meguri.com/

## 取組概要

### 背景・目的

ごみ焼却施設やし尿処理施設の老朽化や最終処分場のひっ迫などに対応するため、焼却処理していた生ごみとし尿・浄化槽汚泥をメタン発酵させ、液体肥料に再生することとした。

可燃ごみの削減により、ごみ焼却施設の統合、液肥の地域内での農地還元を行い、地域循環型社会の構築を目指している。

### 取組内容・ポイント・効果

原料とするバイオマス

生ごみ、し尿、浄化槽汚泥

国内資源肥料の年間製造量／全肥料の年間製造量（製造率％）

800t/800t（100％）

真庭市では2025年1月に「真庭市くらしの循環センター」の稼働を始めた。この施設は、市内の家庭などから出る生ごみ、し尿・浄化槽汚泥をメタン発酵させ液体肥料に再生する施設である。現在、生ごみ約3,000トン、し尿浄化槽汚泥約30,000トンから、約800トンの液体肥料「バイオ液肥」を製造している。この施設にはメタン発酵消化液を濃縮できる設備を備えており、肥料濃度を高めた液体肥料を製造することが可能となっている。濃縮液肥はドローンでも散布が可能である。

肥料の原料となる生ごみは市内のごみステーションで収集している。ごみステーションには生ごみ専用の収集容器を常設、市民は無料で生ごみを24時間365日いつでも出すことができる。

この施設の稼働により、ごみ焼却施設の統合も進み、ごみ処理コストが年間約1.5億円削減できる見込みである。また、液肥の活用により肥料コストの削減、液肥を使った農産物のブランディングなど地域循環型のまちづくりが進んでいる。

真庭市の循環のしくみ



真庭市くらしの循環センター



全国推進  
協議会  
奨励賞

# 豊富な地域資源「竹」をパウダー化し、 独自技術で製造した高機能有機肥料

## 大和フロンティア株式会社

肥料製造  
原料供給  
その他

竹パウダーを乳酸菌発酵した原材料により、肥料製品を独自技術で開発・製造し、特許登録と製品登録販売

### 団体紹介

団 体 名：大和フロンティア株式会社  
取 組 実 施 地：笹サイレージ製造工場／宮崎県都城市  
竹の伐採工場／宮崎県都城市、宮崎県新富町、鹿児島県さつま町  
団体の主な活動：竹を原料としたパウダー製品（肥料・飼料）の製造開発  
ウェブサイト：<https://yamato-frontier.co.jp/>

### 取組概要

#### 背景・目的

南九州の竹林資源は全国でもトップクラスにある。そのため竹林の伐採要望も多く、当社は無償で重機により大量に効率的に伐採し、自社の工場で肥料を製造している。JAや農業卸売業者が販売者となり、農業者にとって機能性や利便性の高い有機肥料として使用されている。

#### 取組内容・ポイント・効果

原料とするバイオマス 竹笹／食品残さ（焼酎粕熟成発酵材）

国内資源肥料の年間製造量／全肥料の年間製造量（製造率％） 1,400t/1,400t（100％）

農作物が地球温暖化の影響を受け、発芽や保水力に変化がみられ、更に病原菌の被害（サツマイモの基腐れ病、バレイシヨのそうか病等）も出ているが、笹サイレージを園芸作物に使用すると、水稻や野菜の栽培で、根の張り向上、生育向上、糖度向上、収穫量向上、コスト削減の効果がみられ、病原菌被害に対しても農家には良好な効果がみられる。なお、ロール（350kg）の購入農業者に対しては、肥料の農地散布で使用するコンボキャスターを無償で貸し出し、作業効率のアップを支援している。

農業者や支援機関に供給することで、食料・農林水産業の生産力向上と持続性の両立をイノベーションで実現する「みどりの食料システム戦略」や遊休農地の活用推進等にも活用され、持続可能な農畜産業の基盤づくりに貢献できることから、SDGsとして評価を受けている。

南九州地域は、竹林面積が全国でもトップクラスである。竹害問題が課題となり、これまでに宮崎県、鹿児島県の15市町と包括連携協定を締結し、行政の理解と協力を得ながら、放置竹林整備や地域農業の活性化に取り組んでいる。

また、竹林面積が豊富で、農業にも特性のある福岡県みやま市に肥料製造工場を建設予定であり、地域の竹害課題の改善と農業活性化に寄与する。製品の販路が北部九州に拡まっていることもあり、各県への工場展開を検討している。

#### 笹サイレージ製造工程



放置竹林の竹伐採



機械で竹粉砕



竹パウダーをロール成型



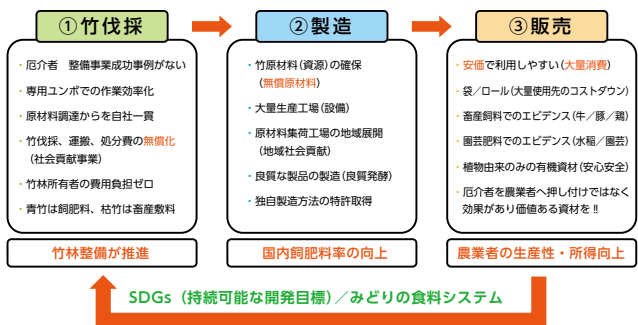
ロール成型後40日間発酵

#### 製 品



#### 地域資源循環型事業

##### 地域資源循環型事業





# 国内肥料資源の利用拡大に向けた 全国推進協議会について

## ■ 趣旨

農業生産に必要不可欠な肥料については、その原料の多くを海外に依存していることから、国際市況や原料産出国の輸出に係る動向の影響を強く受け易い状況となっています。

こうした中、農業生産を持続可能なものにするためには、堆肥や下水など肥料成分を含有する国内資源の肥料利用を拡大し、輸入原料に過度に依存した肥料利用からの転換を進めていく必要があります。

このため、国内資源の肥料利用の拡大に向け、関係団体・関係事業者の取組方針等を共有するほか、関係事業者間のマッチング等を進めることなどにより、原料供給から肥料製造、肥料利用まで連携した取組を各地で創出していくことを支援します。

## ■ 役割・主な活動内容



### 広域的な連携の取組のサポート

事業者間のマッチング機会（国内資源利用体制の構築）の場を提供し、新たな連携づくりをサポートします。



### 生産現場での利用拡大に向けた取組を推進

先行事例等を基に、国内資源由来肥料の導入メリットや、生産現場での導入に当たって留意すべき事項等を取りまとめ、生産現場における国内資源の肥料利用の拡大に向けた取組を推進します。



### 先進事例の横展開・関連情報の提供

農水省 HP において、関連施策情報のほか、会員からの情報を随時受け付け、多様な関係者による取組に関する情報や知見をタイムリーに発信します。

## ■ 会員登録について（随時受付中）

農林水産省では、国内肥料資源の利用拡大に向けた全国推進協議会の設立趣旨に賛同する会員を募集しています。下記の各号に該当する者であって、会員となることを希望される場合は、下記 URL より会員登録を行ってください。

(ア) 全国推進協議会の設立趣旨に賛同し、全国推進協議会の活動に協力すること。

(イ) 会員相互で提供情報を共有することに同意していること。

(ウ) 反社会的勢力に該当しないこと及び反社会的勢力と関わりを持たないこと。

[https://www.contactus.maff.go.jp/j/form/nousan/sizai/member\\_registration.html](https://www.contactus.maff.go.jp/j/form/nousan/sizai/member_registration.html)

## 国内肥料資源推進ロゴマークについて

農林水産省では、令和5年2月に「国内肥料資源の利用拡大に向けた全国推進協議会（以下「全国推進協議会」という。）」を設置し、この全国推進協議会の取組の一環として、令和5年6月に「国内肥料資源の利用拡大プロジェクト」を立ち上げるなど、国内の肥料関係者間のマッチング機会の提供、先進事例の横展開・関連情報の発信等、全国各地における国内資源由来肥料の利用拡大に向けた種々の取組を行っています。

この度、国内肥料資源の利用拡大に関する取組を更に推進するため、全国推進協議会の会員（以下、会員）のHP等への掲載など広報活動への利用や、国内資源由来肥料に添付可能な「国内肥料資源推進ロゴマーク」を作成いたしました。是非、様々な用途でご利用ください。

### 国内肥料資源推進ロゴマーク



【全国推進協議会会員名】は、国内肥料資源の利用拡大に賛同しています

### 利用例



## ロゴマークの利用方法について

本ロゴマークの利用を希望する会員の方は、下記URL先に掲載の「国内肥料資源推進ロゴマーク利用規程」等をご覧ください、利用申請書等必要書類を下記提出先までお送りください。

会員登録をされていない方は、P.17「国内肥料資源の利用拡大に向けた全国推進協議会について」をご確認の上、会員登録をお願いいたします。

### 【国内肥料資源の利用拡大プロジェクト 3. 国内肥料資源推進ロゴマークの作成】

[https://www.maff.go.jp/j/seisan/sien/sizai/s\\_hiryo/kokunaishigen/zenkokukyougikai/project.html](https://www.maff.go.jp/j/seisan/sien/sizai/s_hiryo/kokunaishigen/zenkokukyougikai/project.html)

### 【担当者・問合せ先・提出先】

農林水産省農産局技術普及課 国内肥料資源推進ロゴマーク担当

〒100-8950 東京都千代田区霞が関1-2-1

TEL：03-6744-2107 E-mail：kokunai\_shigen@maff.go.jp



国内肥料資源利用拡大アワード事務局（一般社団法人  
日本有機資源協会（JORA））は、国内肥料資源の利用  
拡大を推進しています。

令和7年度 農林水産省 国内肥料資源利用拡大対策事業のうち  
国内肥料資源活用総合支援事業のうち  
国内肥料資源流通促進支援

国内肥料資源の利用拡大に向けた全国推進協議会  
アワード事務局：一般社団法人日本有機資源協会

TEL：03-3297-5618 FAX：03-3297-5619

URL：https://www.jora.jp/

E-mail：award@jora.jp